

日语研究

第5辑

《日语研究》编委会 编

商务印书馆

日语研究

第 5 辑

《日语研究》编委会 编

商务印书馆

2007 年 · 北京

图书在版编目 (CIP) 数据

日语研究. 第5辑/彭广陆主编. —北京:商务印书馆, 2007. 12

ISBN 978-7-100-05658-8

I. 日… II. 彭… III. 日语—研究—丛刊 IV. H36-55

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2007) 第 162224 号

所有权利保留。

未经许可, 不得以任何方式使用。

RÌ YŪ YÁN JIŪ

日 语 研 究

第 5 辑

《日语研究》编委会 编

商 务 印 书 馆 出 版

(北京王府井大街36号 邮政编码 100710)

商 务 印 书 馆 发 行

北京瑞古冠中印刷厂印刷

ISBN 978-7-100-05658-8

2007 年 12 月第 1 版

开本 787×960 1/16

2007 年 12 月北京第 1 次印刷

印张 21 1/2

定价: 32.00 元

× 663



《日语研究》编辑委员会

主 编 彭广陆 (北京大学)
副 主 编 徐一平 (北京日本学研究中心)
林 璋 (福建师范大学)
主编助理 潘 钧 (北京大学)

编 委 (按汉语拼音顺序排列)

曹大峰 (北京日本学研究中心)	陈访泽 (广东外语外贸大学)
陈俊森 (华中科技大学)	陈力卫 (目白大学)
戴宝玉 (上海外国语大学)	丁 锋 (大东文化大学)
冯良珍 (山西大学)	高 宁 (华东师范大学)
李庆祥 (中国海洋大学)	马朝红 (商务印书馆)
彭 飞 (京都外国语大学)	沈国威 (关西大学)
宋协毅 (大连大学)	王亚新 (东洋大学)
吴大纲 (上海外国语大学)	吴 侃 (同济大学)
修 刚 (天津外国语学院)	徐敏民 (华东师范大学)
续三义 (北京外国语大学)	许宗华 (洛阳外国语学院)
杨 达 (早稻田大学)	杨凯荣 (东京大学)
姚莉萍 (对外经济贸易大学)	于 康 (关西学院大学)
于日平 (北京外国语大学)	俞晓明 (北京语言大学)
翟东娜 (北京师范大学)	张麟声 (大阪府立大学)
张佩霞 (湖南大学)	张 威 (清华大学)
张岩红 (大连外国语学院)	赵 刚 (西安交通大学)
赵华敏 (北京大学)	朱春跃 (神户大学)
朱京伟 (北京外国语大学)	

卷 首 语

本辑共刊发了 19 篇论文和二篇书评。论文的内容涉及语法、词汇、语音和日语教学。其中,有对共时现象的论证,也有对历时演变的考察,还有汉日两种语言的对比研究以及基于语言对比的翻译研究。

本辑特约论文井上优的《言語の対照研究の方法》,以丰富的研究实例,通俗易懂地讲解了对比研究的方法。文章界定了对比研究的三个基本特征,即“仔细观察”、“突显重要特征”和“了解在整体中的定位”,贯穿其中的精神是“思考”。这三个特征体现了论文写作的三个主要环节,即如何通过观察来选题,如何对语言现象进行描写以及如何对描写的结果做出合理的解释。同样关注方法论问题的,还有杉村泰的《试论语料库调查和问卷调查在语法研究上的异同——以日语复合助动词“～てならない”、“～てたまらない”、“～てしかたがない”为例——》。该文探讨了语言研究中实例和内省例句的收集以及各自的用途。即,有关正误的问卷调查,了解到的是语言规范意识;多项选择的调查,目的在于调查语言使用意识;而语料库调查则是用于了解实际使用状况。

这一辑的一个特点,是语言对比研究的论文较多,且涉及面较广。语言的对比研究,可以从共时的角度进行对比,也可以从历时的角度进行对比,其中较为常见的是前者。语言的共时状态,有两种形式:研究者所处的时代和历史上的某个时代。我们常见的语言对比研究,是以研究者所处的时代这一绝对相同的时间段上的语言现象为对象进行的研究,然而作为一种可能性,完全可以对两个不同时间段的两种语言的使用状况进行对比研究。

李长波的《上代日语与先秦汉语指示体系的比较研究》正是对时轴上两个不同的时间段上的语言使用状况进行对比,而其中的可比性在于有文字记载的早期阶段。文章对这种时期的指示词体系和人称词体系的相关性做了考察。作者主张用表示“知觉指示”的“直指”和表示“观念指示”的“意指”

来取代“现场指示”和“文脉指示”，认为上代日语和先秦汉语的指示词体系均表现为“直指”和“意指”的对立，而人称词体系则表现为第一人称与非第一人称的对立。

杨凯荣的《表全称义句式的中日对比研究——论「誰でも+VP」、「誰もが+VP」与“谁+都+VP”、“个个+(都)+VP”的差异——》，以是虚拟还是现实、是属性还是已然的事实等语义特征分析了「誰でも+VP」与「誰もが+VP」的差异，在此基础上将二者与汉语的“谁+都+VP”句式和“个个+(都)+VP”句式作了对比。朴贞姬的《日汉韩处所成分的对象化与语言的主观化》考察了三种语言中处所成分用作宾语的对象化现象，认为这种处所成分的对象化是语言的主观化。

朱京伟的《中日V+N定中结构二字词的比较》主要考察了V+N定中结构二字词的两个语素在汉日两种语言中的分布状况，以及二者间的借用关系。纪晓晶的《表示尊敬的前语素及其构词情况的日汉对比研究》则对汉日两种语言的二字词中尊称前语素的分布状况作了描写。

刘玲的《室町时代末之前的「不便(フベン)」(1)——词义的形成、变化及其特点》从历时的角度考察了日语中“不便”一词的读音和意义的演变过程。陶友公的《果、假两摄和现代汉语韵母为“a/ia/ua”的入声字的日语汉字音》同样采用了历时的视角，根据王力先生的拟音来解释果、假两摄字在不同时期借用到日语时产生的读音差异。

黄毅燕的《日语「NP+の」的转指问题》，虽然探讨的是日语的语言现象，但是使用的是对比语言学的方法，即以汉语对自指、转指的研究成果为基础来考察日语的同类现象。续三义的《日译汉时的视角和文脉——「来る」「行く」と“来”“去”》，同样是在语言对比研究的背景下来分析翻译的问题。

于康、吴松梅的《动词的语义制约与「Vないでいる」语义功能》则纯粹探讨日语的语法问题。作者根据动词的类型将「Vないでいる」分为7种类型，认为他动词的意图性和非意图性、非作格自动词的意图性和非意图性、非宾格自动词均制约「Vないでいる」的语义表达功能，在与体的关系上，「Vないでいる」中存在一个语义连续统。朱鹏霄的《对「ながら」主从句主

语间的语义关系及从句谓语动词类别的考察——基于语料库的实证研究——》，把主句主语和从句主语之间的语义关系分为整体部分关系、集合包含关系和等同关系3种类型，并考察了主从句主语语义关系和从句谓语动词类型的相关关系。苏鹰、张佩霞的《接续词「それが」的语义特征》认为，「それが」是由“XのがY”句式转化而来的，而“Aは～。それが、Bは～。”结构中表示时间先后关系的A、B导致了对立关系的产生，因而形成逆接的语义。

张超的《对日语手段复合动词的副词修饰的考察——再议“词汇性复合动词”与“句法性复合动词”》，通过一系列的句法测试，证明日语中的手段复合动词属于“句法性复合动词”而不是“词汇性复合动词”。周彤的《从词组学的角度看「遠い」「近い」的多义结构》在词组学的理论框架下，通过大量的实例对「遠い/近い」的六种语义进行了考察，发现不同的语义跟参照项的格标记之间存在某种相关关系。陈建明的《关于「もっと」和形容词否定式搭配使用的考察》，通过网络例句分析调查了不同的句法环境下副词「もっと」跟形容词否定式的同现情况以及「もっと」的不同语义。

朱春跃的《语音学实验研究手段及其成果在日语教学中的应用》，深入浅出地介绍了实验语音学的分析方法以及现有成果如何运用于语音教学。徐莲的《关于建立“中国学习者日语语料库”的构想》，介绍了国内外学习者语料库的建设状况，并提出建立中国日语学习者语料库的具体构想。

我们的《卷首语》只是对本辑论文的大致思路和主要论证方法做个简单的导读，细读论文，其中丰富的例证和严密的分析论证定会给读者带来学术的快乐。

《日语研究》编委会

目 录

卷首语 《日语研究》编委会(1)

特约论文

言語の対照研究の方法 井上 优(1)

论 文

上代日语与先秦汉语指示体系的比较研究 李长波(15)

表全称义句式的中日对比研究——论「誰でも+VP」、

「誰もが+VP」与“谁+都+VP”、“个个+(都)+VP”的差异

..... 杨凯荣(39)

日汉韩处所成分的对象化与语言的主观化 朴贞姬(57)

动词的语义制约与「Vないでいる」语义功能 于 康 吴松梅(71)

对日语手段复合动词的副词修饰的考察

——再议“词汇性复合动词”与“句法性复合动词” ... 张 超(91)

从词组学的角度看「遠い」「近い」的多义结构 周 彤(105)

日语「NP+の」的转指问题 黄毅燕(129)

关于「もっと」和形容词否定式搭配使用的考察 陈建明(140)

试论语料库调查和问卷调查在语法研究上的异同

——以日语复合助动词「～てならない」「～てたまらない」、

「～てしかたがない」为例 杉村泰(155)

对「ながら」主从句主语间的语义关系及从句谓语动词类别的考察

——基于语料库的实证研究 朱鹏霄(169)

接续词「それが」的语义特征 苏 鹰 张佩霞(181)

- 中日 V+N 定中结构二字词的比较 朱京伟(193)
- 表示尊敬的前语素及其构词情况的日汉对比研究 纪晓晶(215)
- 室町时代末之前的「不便(フベン)」(1)——词义的形成、变化及其特点
..... 刘 玲(235)
- 语音学实验研究手段及其成果在日语教学中的应用 朱春跃(254)
- 果、假两摄和现代汉语韵母为“a/ia/ua”的入声字的日语汉字音
..... 陶友公(271)
- 关于建立“中国学习者日语语料库”的构想 徐 蕊(283)
- 日译汉时的视角和文脉——「来る」「行く」与“来”“去” 续三义(300)

书 评

- 评王忻著《中国日语学习者偏误分析》..... 王婉莹(311)
- 《现代日语感情词研究》评介 朱鹏霄(321)

言語の対照研究の方法

井上 优 （国立国語研究所）

提要 对于语言研究来说,“对比”是一种有效的方法,对几种语言进行比较(如日语与汉语),可以帮助我们发现并进一步了解各种语言所具有的特征以及各种特征所包含的理论意义。语言的对比研究分两个阶段:第一是观察和整理语言之间的类似和差异,第二是考察存在于类似和差异背后的一般原理。

キーワード 対照研究,観察,関連づけ,言語表現の具象性,事象の個別具体性

1. はじめに

本論では,次の2つのことを述べる。Ⅰについては第2節,第3節,Ⅱについては第4節,第5節で述べる。

Ⅰ 言語の対照研究とは,比較対照という方法を用いて,それぞれの言語が持つ特徴や,その特徴が持つ言語学的な意味を具体的にとらえる研究のことである。

Ⅱ 言語の対照研究には次の2つの段階がある。

- ・第一段階:言語間の類似と相違を詳細に観察し,見通しよく整理する段階。
- ・第二段階:言語間の類似と相違の背景にあることがらを考える段階。

2. 対照研究とは何か

対照研究は「比較対照」という方法を用いた研究である。「X研究」と

いう語は、「文法研究」「日本語研究」のように〈X=対象〉である場合と、「実験研究」「計量研究」のように、〈X=方法〉である場合があるが、「対照研究」は言うまでもなく後者である。

研究の方法には必ず目的がある。比較対照の目的は「他を鏡として、ある物事が持つ特徴や、その特徴が持つ意味を具体的にとらえる」ことにある。そして、このことは、我々が日常生活の中でごく普通におこなっていることである。以下、そのことを具体的に見ていく。

① 比較対照する＝よく観察する

「一見同じように見えるが、よく見ると違う」、「一見違うように見えるが、よく見ると似た点がある」ということは、我々が日常的に経験することである。比較対照することは、すなわち「よく観察する」ことなのである。日本語研究において「と、ば、たら、なら」を比較したり、「は」と「が」を比較したりするのも、「比較する→よく観察する→それぞれの特徴がよくわかる」ということがあるからである。日中対照研究において、たとえば「まだVない」と“还不V”を比較する(黄麗華 2000)のも、これとまったく同じである。

(1) 我上了12点由郑州飞往北京的飞机。

可是,到了点,又等了两个小时,飞机还没有起飞的迹象。

乘客们围住机长责问:“飞机为什么{还不起飞/?? 还没起飞}?”

「どうして{まだ飛ばない/?? まだ飛んでいない}んだ?」

机长回答说:“领导{?? 还不来/还没来}。”

「指導者が{まだ来ない/まだ来ていない}からだ」

(2) (ボクシングの実況中継で、ダウン寸前の選手の様子をアナウンサーが伝える。)

a. タイソン,まだ{倒れません/?? 倒れていません}。まだ立っています。

b. 泰森{?? 还不倒/还没倒}。还坚持着呢。

「まだVない」と“还不V”には、「当該の事態が実現に向かう様子が現在ない」ことを表す用法がある。「まだVしない」は、当該の事態が実現に向

かう様子がないことを客観的に述べる表現であり、事態が実現するかどうかに話し手の注意が向いていれば使える。これに対し、“还不 V”は、事態が実現に向かう様子がないことに対する当惑やいらだちの気持ちを含む表現であり、(1)の機長や(2)のアナウンサーのように事実を客観的に伝える場合は使いにくい。「一見同じように見えるが、よく見ると違う」わけである。

もう1つ例をあげよう。中国語の肯定応答表現“对”,“对了”(そうです)の使い分けをよく見ると、日本語の「は」,「が」の使い分けと似ていることがわかる(黄麗華 2002)。

(3) (相手がよいアイデアを出したのを聞いて)

对,对,就这么办吧。(そうだそうだ(君の言うことは正しい),そうしよう。)

(4) (クイズ番組で。なかなか正解が出なかったが、王さんがようやく正解を言った。それを受けて司会者が)

对了,小王猜对了。(そうです(それが正解です)。王さんが正解です。)

(5) (思い出せずにいたことを思い出して)

对了,我还有一件事要跟你说。(そうだ(これが正解だ)。君に伝えたいことがあるんだった。)

応答表現“对”は「相手の発言を正しいと評価する」ことを表し、これは日本語の「あなたの言うことは正しい」のニュアンスに近い。また、“对了”は「その場に正解が出現した」ことを表し、これは日本語の「そう、それが正解だ/そうだ、これが正解だ」のニュアンスに近い。「一見無関係のように見えるものが、よく見ると深いところで似たところがある」わけである。

② 比較対照する＝重要な特徴を際立たせる

人は、「我々の若いころは…だったが、今の若い人は…」,「中国人は…だが、日本人は…」のように、物事を対比させることが好きである。これは、2つのものを対比することを通じて、それぞれが持つある特徴を重要

な特徴として際立たせることができるからである。「スル」的な言語/「ナル」的な言語(池上 1992)といった言語の類型に関する研究でなされるのも、まさにこのようなことである。

- (6) 「スル」的な言語: 出来事に関与する〈個体〉, 特に〈動作主〉としての〈人間〉に注目し, それを際立たせるような形で表現する傾向が強い言語。

「ナル」的な言語: 〈出来事全体〉をとらえ, 事のなりゆきという観点から表現する傾向が強い言語。

- (7) 出発の日が決まった。/We have decided the date of our departure.

この千円札, くずれますか。/Can you break this 1,000 yen bill for me?
(吉川 1995)

③ 比較対照する = 全体の中での位置づけを知る

日常生活においては、「ほかの人はどうか」、「普通はどうか」ということが気になるものである(たとえば, 試験のときには他人の点数が気になる)。これは, ほかの人や一般的な事例と比較しないと, 全体の中での自分の位置づけが把握できないからである。

同じことは, 言語研究においてもあてはまる。たとえば, 日本語文(8)だけ, あるいは中国語文(9)だけを見ると, 括弧内のように説明すれば十分のように見える。

- (8) a. 待っている。(現在の動作継続)

b. 門があいている。(結果状態(状態維持))

c. ガラスが割れている。(結果状態(結果残存))

d. 3 時間待っていた。(過去の動作継続)

- (9) a. 等着。(“着”は継続を表す)

b. 门开着。(“着”は継続を表す)

c. 玻璃碎了。(“碎”は瞬間動詞なので“了”)

d. 等了(*等着)三个小时。(「3 時間」という区切りがあるので“了”)

しかし、日本語文(8)と中国語文(9)を比較対照すると、中国語の継続アスペクトは「動作・状態の維持」という範囲に収まるのに対し、日本語の継続アスペクトは「結果残存」を含むより広範囲の概念であることがわかる。また、中国語は、限界性の有無(継続動詞か瞬間動詞か、限界点があるかないか)がアスペクト形式の選択に直接関わるが、日本語はそうでないということもわかる(井上・生越・木村2002)。日本語と中国語とでは、「継続アスペクト」の具体的な内容、およびアスペクト形式の選択に関する基本原理が異なるのである。

これに限らず、個別言語が持つ性質の中には、他の言語と比較してはじめて明確にとらえられるものが少なくない。また、個別言語に見られる現象が持つ言語学的な意義も、他の言語と比較してはじめて正確に把握できることが少なくない。

以上の例からわかるように、対照研究とは、比較対照により新たな知見を見出そうとする研究である。比較対照という方法を用いて、それぞれの言語が持つ特徴や、その特徴が持つ言語学的な意味を具体的にとらえる研究、それが言語の対照研究である。

3. 何が対照研究でないか

「対照研究とは何か」ということは、「何が対照研究でないか」を考えるとより明確になる。対照研究は、比較対照により新たな知見を見出そうとする研究である。次の(10)のように、比較しなくてもわかることを対照の形で述べただけの解説(概論書によく見られる)は、情報としては有益だが、それ自体は対照研究ではない。

(10) a. 日本語はSOVの語順だが、中国語はSVOの語順である。

b. 日本語の指示詞は「コ(近)」「ソ(中)」「ア(遠)」の3系列だが、中国語の指示詞は“这(近)”“那(遠)”の2系列である。

また、次の(11)のように、表面上の対応関係を述べるだけのものも、対照研究とは言えない。「どういう場合にそれぞれの対応関係が成立するか」がわからないと、言語学的にも言語教育上も意味がないからである。

(11) a. “NP 的 NP”は「NPのNP」と「NP の NP」に対応する。

b. “V 了”は「Vした」と「Vしている」に対応する。

先に述べたように、比較対照することは、すなわち「よく観察する」、「重要な特徴を際立たせる」、「全体の中での位置づけを知る」ことである。(10)や(11)が対照研究と言えないのは、比較対照が目的のない形だけのものであり、「よく観察する」、「重要な特徴を際立たせる」、「全体の中での位置づけを知る」ことに結びついていないからである。対照研究はあくまで「言語を比べて考える」研究であり、複数の言語を比べるだけなら、それは対照研究とは言えない。

「受身文の日中対照」、「断り表現の日中対照」といった漠然としたテーマで対照研究をやろうとすると、形だけの比較対照になることが多い。研究テーマとは「まだこんなことがわかっていない」という未解決問題のことであり、研究とは未解決問題を解決するためにさまざまな工夫をすることである。「受身文の日中対照」、「断り表現の日中対照」というだけでは何が未解決問題なのかわからないから、比較対照も目的のない形だけのものになる。修士論文や博士論文の題目は「受身文の日中対照」、「断り表現の日中対照」のような大きな題目になることが多いが、それはあくまで、論文で扱った一連の未解決問題がその題目に関係するというものであり、漠然としたテーマで研究をおこなったのでは決してない。

目的のない形だけの比較対照にならないようにするためには、個別言語研究において問題にされないことがらを問題にすることが重要である。具体的な着眼点としては、たとえば次のようなものがある。

着眼点 1: 日本語(中国語)の感覚で中国語(日本語)を見たときに、不思議な感じがするところ。

着眼点 2: 日本語研究、中国語研究の既存の説明では、日本語と中国語の類似や相違がうまく説明できないところ。

着眼点 1 の例としては、日本語と中国語の変化の表現(井上 2006)をあげることができる。

(12) a. 病気が治った。(＝自然に治った/治療の結果治った。)

b. 病治好了。/病好了。

(13) a. 自転車直った。(=修理の結果直った。)

b. 车修好了。/??车好了。

日本語では、自然発生的に生じた自律的变化も、動作の結果として生じた非自律的变化も、同じように「…なった」と結果のみを叙述する。一方、中国語では、結果のみに言及できるのは自律的な変化に限られ、非自律的な変化を叙述する場合は、通常「動作-結果」の構造を用いて、変化を引き起こした動作に言及する(木村 1997, 井上 2006)。“病好了”と言えて“??车好了”とは言いにくいのも、「病気が治る」という変化は自然発生的に生じうるが、「自転車直る」という変化は、修理の結果生ずる変化であり、自然発生的には生じない変化だからである。

日本語話者にとっては、変化を叙述するのにいちいち動作に言及する中国語は不思議な感じがする。一方、中国語話者にとっては、動作によって引き起こされた変化を叙述するのにその動作に言及しない日本語は不思議な感じがする。しかし、それぞれの現象は、それぞれの言語においてはあたりまえのことであるため、上記のような違いが生ずる背景については、欧陽(2003), 井上(2006)などを除き、日本語研究でも中国語研究でもあまり具体的に論じられたことがなかった。日本語と中国語の比較対照を通じて新たな未解決問題が見出されたという点で、変化の表現に関する問題は対照研究にふさわしいテーマであると言える。

着眼点 2 の例としては、「のだ」と“(是)…的”の比較対照(井上 2003)をあげることができる。この2つの表現は、「の」と“的”という名詞化と関係する形式を含み、「既定事象に対する説明」を表すムードの表現であるという点で共通する。中国語の文法書でも、“(是)…的”は「のだ」文で訳されていることが多い。

(14) a. 他妹妹是昨天来的。(彼の妹は昨日やってきたのだ。)

b. 我是坐火车来的。(私は汽車で来たのです。)

(相原ほか1996)

しかし、「のだ」と“(是)…的”は異なる点も少なくない。たとえば、次

の例では「のだ」は必須だが、「(是)…的」は使えない。

(15) [目の前にいる相手の動作の内容を問う]

何をやっているんですか(* やっていますか)?

你在干什么(* 干什么的)?

(16) どうして遅刻したんですか(* 遅刻しましたか)?

你为什么迟到了(?? 迟到的)?

逆に、次の例では、「(是)…的」の使用は必須だが、「のだ」は必須ではない。

(17) A: (ここには)どうやって来ました(来たんですか)?

你怎么|来的/* 来了|?

B: バスで来ました(来たんです)。

我坐公共汽车|来的/* 来了|。

また、よく知られているように、「(是)…的」はすでにおこなわれた動作に対する説明にしか使えないが、「のだ」はすでにおこなわれた動作に対する説明にも、これからおこなわれる動作に対する説明にも使えるという違いもある。

(18) (子供がどこかに行こうとしているのを見て)

a. どこに|? 行く/行くの|?

b. 你到哪儿去(* 去的)?

同じく説明のムードを表す「のだ」と「(是)…的」がこれほどまでに異なる性質を示すことは一種のパズルと言ってよい。しかし、「のだ」と「(是)…的」の対照研究は多いが、このパズルの背景にある日本語と中国語の本質的な相違について考える試みはそれほど多くない。このようなテーマも、対照研究にふさわしいテーマである。

4. 対照研究の第一段階:類似と相違の観察・整理

対照研究,すなわち「言語を比べて考える」研究には2つの段階がある。

・第一段階:言語間の類似と相違を詳細に観察し,見通しよく整理する段階。